



# 南の躍動

第 4 号



奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の推進

大島教育事務所

令和5年1月23日

## 奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の更なる推進を！

大島教育事務所長 溜 清弘

新しい年を迎えました。子供たちや教職員の皆様にとりまして、本年が希望に満ちた素晴らしい年になりますようお祈り申し上げます。

昨年は、学校訪問や公開研究会等で多くの授業を参観しました。「教育の成果は子供たちの姿で」と言われますが、問題解決に向け深く考えている姿、自分の考えを明確にして友達や教師と対話する姿、そこから自分の考えを深めたり広げたりする積極的な姿などを多く見ることができ、教育活動の充実が図られていると感じました。また、多様な教材やICTを活用して子供たちの興味・関心や集中力を高めたり、終末段階で確実に学習内容の理解状況を確認したり、自らの指導力を高めるための授業改善に取り組んだりするなど、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善に向けた先生方の熱心な取組も度々参観することができ、心強く思いました。

「生徒指導提要（令和4年12月改訂）」では、教職員一人一人が自発的意志によって自らの資質や能力を向上させるよう努めることや「学び続ける教員」として、自己を理解し、自らの実践や体験を批判的に問い直す姿勢を持ち続けるようにすることが大切と示されています。持続可能な社会の創り手を目指す教育の実現に向け、御努力いただいていることに感謝申し上げますとともに、「大島の子供たちに必ず力を付ける」という強い意志をもって、皆様方と共に一生懸命取り組んでいきたいと考えております。

さて、令和5年は奄美群島復帰70周年の記念の年となり、大島教育事務所においても、「奄美群島日本復帰70周年記念第37回大島地区中学校弁論・ショートスピーチ大会」を開催します。各学校においても、奄美の先人たちの行動と勇気の歴史を風化させないように、単なる通過点とせず、奄美の歴史や文化、その将来について深く考えさせ、「人材の島」、「教育の島」と謳われている本地区の特性を更に生かした教育活動を展開してほしいと思います。

また、燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会が10月に開催され、奄美市「相撲」、天城町「トライアスロン」など、公開競技、デモンストラレーションスポーツ等が12市町村で開催されます。さらに、全国高等学校総合文化祭が7月に開催され、奄美市では「郷土芸能」が催されます。これらの行事を通して、奄美を盛り上げるだけでなく、奄美のよさ、人のよさを知ってもらう良い機会になると考えております。

今年も多くの行事等が計画されております。実りある一年となるように市町村教育委員会や各学校と一体となって推進していく所存です。どうぞ、よろしくお願いいたします。



## コアスクールプロジェクト〔コアスクール・エリア推進スクール〕

本年度、大島地区では、以下の7校のプロジェクト校(コアスクール, エリア推進スクール)を指定し、教員の授業力や児童生徒の学力の向上を目的として、研究実践を行っています。

具体的には、各学校において、生徒の姿を見取り、その姿の分析を通して授業を振り返る校内研修を行うとともに、各市町村の小中学校に幅広く案内し、目指すべき児童生徒像やそのための手立て等を議論し合う場としています。7校で公開された研修会には、小・中・高等学校の延べ77校からの参加がありました。

コアスクール	徳之島町立亀津中学校
エリア推進スクール	奄美市立金久中学校
	喜界町立喜界中学校
	天城町立天城中学校
	伊仙町立犬田布中学校
	和泊町立和泊中学校
	与論町立与論中学校



【学び合う生徒の姿(亀津中)】 【授業研究の様子(亀津中)】



これまでの取組を通して、どの学校においても、授業について和気あいあいと積極的に協議を行う先生方の姿があり、学び合う教師集団の雰囲気が醸成できたことが成果でした。一方で、授業研究における協議の時間が足りず、生徒の姿についての協議に終始してしまい、実際に授業改善を行うための「共通実践事項(短期展望・長期展望)」の設定まで行うことができないことが課題として挙がっています。そのため、今後、「目指す生徒像の共通理解」「目指す生徒像を踏まえた授業観察」「ファシリテーターとの事前の打合せ」を工夫改善することが取組充実の鍵になると考えています。

今後、各校が取り組んでいる研修方法がより深まることで主体的・対話的で深い学びの授業改善につながり、児童生徒の資質・能力の向上につなげていくことが大切です。

## 第19回大島地区生涯学習推進大会

令和4年11月19日(土)に、喜界町体育館において、12市町村から300人以上の参加者を迎え「奄美のよさを生かした、人づくり・つながりづくり・地域づくり～地域・学校・家庭の連携・協働するまちづくりを目指して～」の大会テーマのもと、4年ぶりに標記推進大会が開催されました。当日は、社会教育功労者として地区内から5人の方が表彰された他、青少年育成・環境美化・健康づくり・文化伝統芸能等の継承・まちづくりといった5つの立場からシンポジストによる提言がなされ、フロアの参加者も交えた活発な意見交換がなされました。また、NPO法人喜界島サンゴ礁科学研究所所長の山崎敦子氏による、演題「サンゴの島の風土に出会ったサイエンス」の講演においては、喜界島の素晴らしさや、山崎氏が喜界町民として地域の方とつながり、科学を通じた人づくり、まちづくりを推進している姿に感銘を受けました。次回は令和6年度に和泊町で開催予定です。素晴らしい大会となるよう、和泊町を中心に12市町村と連携を図りながら、準備を進めていきます。

- それぞれの地域での活動を知り、我が町でできることは何なのかを考えるよい機会となりました。「できる人ができる時に」をモットーにはしているものの、今回のシンポジウムでの提言を受けて、再発見につながるヒントを沢山いただきました。
- 素晴らしい御講演でした。初めて知ることが多く、大変興味深く拝聴させていただきました。また、作品展も楽しく見させていただきました。皆さん、素晴らしい日常を過ごされているんだなあと感じました。

【参加者の感想】



【シンポジウム】

## 奄美の文化財等 ～アマミノクロウサギ(国指定特別天然記念物)～

地球上で奄美大島と徳之島に分布し、島々の象徴的存在でもあるアマミノクロウサギ。耳と足の長さは、日本本土に分布する野ウサギの半分程度です。

「キーキーツ」という金属音のような甲高い鳴き声を発する、ウサギとしては珍しい特徴も持ち合わせています。昼間は岩のすき間や自らが掘った巣穴で休息し、夜になると活動します。近年、私たちの生活圏内での観察例が増えています。夜間に車を運転する際は、「アマミノクロウサギが飛び出してくるかもしれない!」ということを頭の片隅に置いていただけたらと思います。



【奄美市教育委員会文化財課提供資料】